

## エコ de スマイル コンテスト in みやぎ

ストップ温暖化センターみやぎでは、今年から環境省石油特別会計委託事業として『エコ de スマイルコンテスト in みやぎ』を始めました。年々増加傾向にあるCO<sub>2</sub>排出量にストップをかけようと、宮城だけではなく全国でいっせいに開催されています。

このコンテストは、現在宮城県内で行われている温暖化対策に効果のある取り組みや物を公募し、選考委員会で審査し、優秀賞は全国大会へと出場します。企業、NPO、NGO、団体、もちろん個人でも応募することができます。遠くから輸入していた食材を地元産に替えた取り組みや、地域での省エネ・ごみ減量活動、緑のカーテン・打

ち水で夏を涼しく過ごす工夫、エアコンではなく暖炉を使うなど、さまざまな取り組みを募集しています。

宮城県の環境への活発な取り組みをPRする絶好の機会です。このコンテストは3年間続きますので皆さんの取り組みを教えてください。募集期間は8月23日（木）まで。詳細はストップ温暖化センターみやぎのWeb-Siteをご覧ください。



## サンゴ銃後（その3）

5月、シュゴンやサンゴの生きる豊かな自然を持つ沖縄で、米軍基地を移設するため、日本の海上自衛隊に『見守られながら』環境調査が行われました。軍隊は人も環境も決して守ることはありません。軍隊に『守られた』環境調査などというものがあるのかどうかということを知る必要があります。

かつてベトナムで、アメリカの軍隊は、マングローブの林を根絶やしにするためにダイオキシンなどを含む枯れ葉剤をまき散らし、人体にも大きな影響を与えました。この7月、アメリカ軍の元兵士が沖縄の訓練場でダイオキシンを含む枯れ葉剤を散布、がんになっていたことが明らかになりました。沖縄からベトナムへ運ばれたのでしょうか。何も知らされないまま40年ほども過ぎてしまいました。

田島征彦さんの「てっぼうをもったキジムナー」（童心社、2005年）を読んでみましょう。夜に

なると島のまわりを飛び回って沖縄のひとをまもってくれるというキジムナー。アメリカの軍隊がおしよせてきたとき、ちいさなさっちゃんもキジムナーだと思っていたのはかくれていた日本軍の兵士でした。この日本兵はアメリカの兵隊に殺されてしまいます。おじいさんはさっちゃんの話聞いて「てっぼうをもったひとは、てっぼうにたおされるのさあ。・・・」といます。この本には沖縄の人たちが強いられ翻弄（ほんろう）されてきた歴史、教科書から消されてしまった苦しみがかかれています。沖縄を守ってくれるキジムナーとは何でしょうか。沖縄の環境を守ってくれるのは何でしょうか。少なくとも鉄砲を持った軍隊では決してないことだけは確かです。

